

ニュースリリース

コペルニクス、ガリレオ、ニュートン、アインシュタイン……、
偉大な知性との出逢い！



東京展開催に関するお知らせ

会期：2018年9月8日（土）－9月24日（月・祝） 会期中無休

会場：上野の森美術館

入場無料

主催：K.I.T.金沢工業大学、上野の森美術館

本件に関するご取材、お問い合わせ先

金沢工業大学

企画部 担当：新田光子 koho@kanazawa-it.ac.jp

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1

電話 076-246-4784 FAX 076-248-7318

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/>

はじめに

“工学の曙文庫”というライブラリーがあります。金沢工業大学が“工学”の観点から、科学的発見、技術的発明の原典初版を収集した稀覯なライブラリーです。収蔵されているのは、グーテンベルクによって印刷技術が発明された15世紀以降の書物。古くはコペルニクスの『天球の回転について』からニュートンの『プリンキピア』、近年のものでは『スペースシャトル・チャレンジャー号の事故に関する調査委員会報告』までが収められています。このライブラリーはいわば、工学を志した全人類の叡智が静かに眠っている「知の森」なのです。

〔世界を変えた書物〕展、この展覧会は知の森で静かにその時を待っていた工学の叡智を、専門家のための資料という枠組みを超えて、広く一般に紹介することを目的に企画されました。専門家ではない一般の来場者が書物と出逢い、興味を抱きかつ理解しやすくするための展示の根幹を担ったのが金沢工業大学の大学院生・学部生たちです。膨大な蔵書の中から展示する書物を厳選、それらの書物同士の関係性がひと目でわかるような空間デザインを、担当教員とともに練り上げていきました。

「知の壁」で書物の歴史を概観した来場者は、さらにその先に広がる圧倒的な「知の森」へと足を踏み入れることになります。タイポグラフィや図案の美しさだけでも、一見の価値がある展示です。

そして「知の森」を知の連鎖に沿うように旅したあとは、過去から未来へと伸びる叡智の連続性を感じさせてくれることでしょう。

この展覧会が、書物が湛える豊かな叡智への、出逢いと気づきのきっかけとなれば幸いです。

金沢工業大学

実施概要

タイトル： [世界を変えた書物] 展 一人類の知性を辿る旅ー

会期 : 2018年9月8日(土)ー24日(月・祝) 会期中無休
午前10時~午後5時(入場は閉場の30分前まで)

会場 : 上野の森美術館 東京都台東区上野公園1-2 (〒110-0007)

入場無料

もしコペルニクスが地動説を説かなければ、太陽は地球の周りを回り続けたかもしれません。もしニュートンが万有引力を発見しなければ、もしダーウィンが生物の進化を体系化しなければ……。彼らは間違いなく、世界に対する認識を一変させた人類が誇る叡智です。そして、彼らの発見を広く世に伝えた物が書物なのです。そんな稀覯な初版本、偉大な知性との出逢いの場、それが『世界を変えた書物』展です。本展では、金沢工業大学が所蔵するコレクション“工学の曙文庫”から選りすぐられた稀覯書の数々を、わかりやすく展示公開します。人類の叡智を未曾有にたたえる「知の森」を辿る旅が、あなたにとっての刺激的な出逢いと豊かな気づきの場になれば幸いです。

主催 : K.I.T.金沢工業大学、上野の森美術館

監修 : 金沢工業大学ライブラリーセンター顧問 竺覚暁

会場構成・展示デザイン: 金沢工業大学建築学部 宮下研究室
金沢工業大学准教授 宮下智裕・大学院生・学部生

アドバイザー: 立川直樹

アドバイザー: 橋本麻里

制作 : ハクシオン

お問い合わせ: 金沢工業大学企画部 電話 076-246-4784 メール koho@kanazawa-it.ac.jp
〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1

本展公式サイト: <http://www.kanazawa-it.ac.jp/shomotu/index.html>

展示内容

本展の展示プランは、開催するにあたり、金沢工業大学建築学部 大学院生・学部生が、考案し構築したものです。会場全体を「知の森」ととらえ、書物の持つ魅力を様々な角度からご紹介します。サイエンティストたちが歩んだ知性の道を是非一緒に辿ってみてください。きっと新しい発見と感動に巡りあえます。

「知の壁」 THE WALL OF WISDOM

旅のはじまりは、圧倒的な「書物の壁」との出会いからはじまります。現代の電子図書からさかのぼり、中世のグーテンベルグによる印刷機の発明まで、書物の歴史を辿ります。



「知の壁」展示イメージ

「知の森」 THE FOREST OF WISDOM

オリジナル原書は、それ自体が、作品（オブジェ）としての魅力に溢れています。ここでは参加者は森の中のエクスプローラー（「知の探検者」）となります。科学的発見、技術的発明は常に先人の成果に関連しながら、次の新たな「ひらめき」や「発見」へと、「知の連鎖」を繰り返し、人類の文化を前進させてきました。「知の森」のネットワーク、科学の結びつきを体感するとともに、原書の魅力を感じ取っててください。また、今回東京展では、特別出品として、チャールス・ダーウィン「種の起源」（1859年）、グレゴール・ヨハン・メンデル「植物-雑種についての研究」などの著名な原書をご紹介します。



「知の森」展示イメージ

「知の繋がり」 THE RELATION OF WISDOM

かつて紙媒体として登場した「書物」は、電子書籍など新たなメディアも加わり、現代を生きる私たちは、膨大な情報量のなかで、新しい「知の繋がり」の方法を模索しています。書物との出会いによる人の脳内での「知の繋がり」の過程。「書物」を通して人と人が、情報を共有し、伝達する様子。過去から現代、さらには未来に向けて「知の連鎖」は、時空を越えて、繋がる様子を空間インスタレーションとして紹介します。

「知の繋がり」と題したインスタレーションは、金沢工業大学建築学部 宮下研究室の学生によるものです。

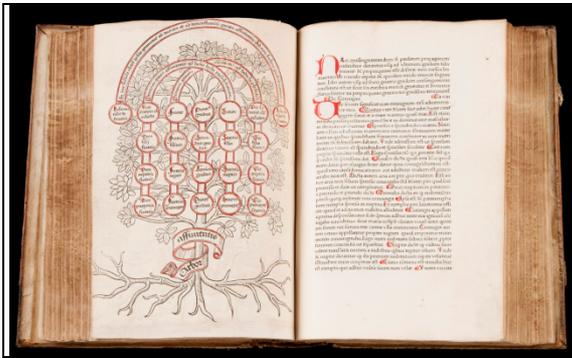
*展示内容は都合により多少変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

出展書籍(一例)

イシドール (570-636頃) . 「語源学」 1472年, 初版.

本展出品物のなかで、もっとも古い書籍。

科学及び技術用語を含む術語を解説した、一種の百科全書。自然科学の記述がある書物としては最古の部類に属す。イシドールは6世紀の人で、この書物を書くことによって、失われて行く古代の科学技術知識を保存し中世に伝える役目を果たした。数学、天文学、解剖学、地学、鉱物学、工学、建築学、農学、気象学などの古代科学技術の貴重な概説を含んでいる。



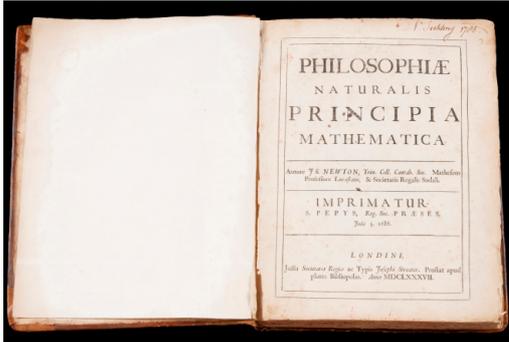
ニコラス・コペルニクス (1473-1543). 「天球の回転について」 ニューレンベルク, 1543年, 初版

「地動説」という太陽系モデルを確立した科学技術上最大の書物。プトレマイオス「天動説」が実際の観測結果と合わなくなり、コペルニクスは古代ギリシアのアリストタルコスの唱えた太陽中心説に着目したのである。この後、ケプラーが惑星の楕円軌道を、ニュートンが引力の法則を発見して、その正しさが証明された。



アイザック・ニュートン (1642-1727). 「自然哲学の数学的原理 (プリンキピア)」 ロンドン, 1687年, 初版.

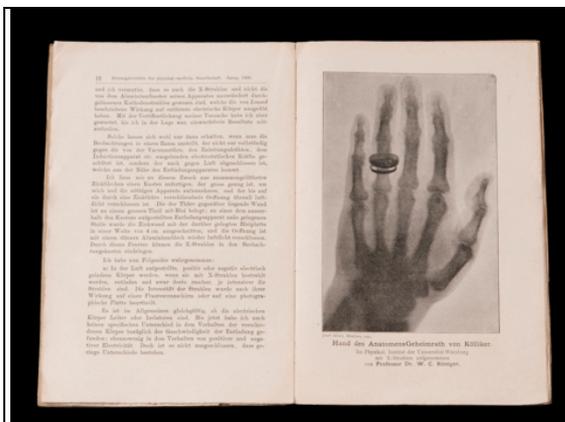
ニュートンは、本書で新しい宇宙観、宇宙の新しい「パラダイム」を作り上げた。地動説の力学的証明である。第一巻では有名なニュートンの三法則、慣性の法則、運動の法則、作用・反作用の法則を提示。第二巻では流体力学を論じ、第三巻はニュートン最大の業績である万有引力論が発表されている。



ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン (1845-1923).

「新種の輻射線について」, ヴェルツブルク, 1895-1896年, 初版.

1895年秋、ヴェルツブルグ大学物理学教授レントゲンはクルックス管を用いて陰極線の実験をしていた。その際、紙に包んだクルックス管から2mも離れた所に置いてあったシアノ白金酸バリウムを塗った紙が蛍光を発しているのを発見した。彼はこの蛍光を生じさせた放射線をX線と名付け、基本的性質を確めた。本書はこの発見の第一報と第二報であり、講演報告をまとめたもので、最初のレントゲン写真の公表でもあった。



東京展 特別出展書籍(一例)

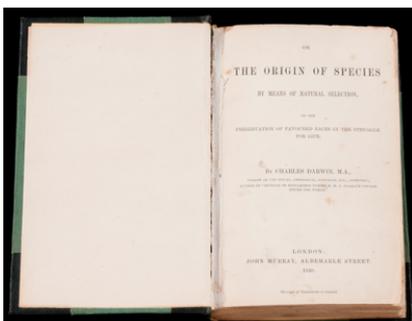
ブлез・パスカル (1623-1662). 「液体の平衡及び空気の質量の測定についての論述」 パリ, 1663年, 初版.

「人間は考える葦である」で知られる哲学者パスカルは、多方面でその才能を発揮した。本書は、彼の物理学における業績について述べられたもの。その一つは大気力学。彼はトリチェリの気圧計を用いて、高い場所ほど大気圧が減少することを確認した。もう一つは流体力学の「パスカルの原理」。密閉容器中の流体は容器の形に関係なく、ある一点に受けた圧力をそのままの強さで、流体の他のすべての部分に伝えるというものである。



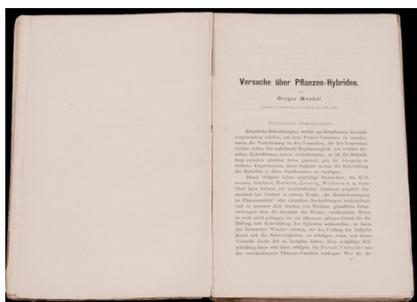
チャールズ・ダーウィン (1809-1882). 「種の起源」 ロンドン, 1859年, 初版.

有名なビーグル号の航海に乗艦したダーウィンは、フィンチ（スズメの一種）の14種類の変種がガラパゴス群島に生息し、変種ごとに群島の特定地域に繁殖しているのを見た。彼は当初この事実を軽視したが、最終的には、14の変種が独立して発生したとは考え難く、エクアドルの原種から展開したと見るのが妥当だと考えた。そしてダーウィンは本書で、種は常に環境に適合するように変化するという彼の進化論を、世に問うたのである。



グレゴール・ヨハン・メンデル(1822-1884). 「植物一雑種についての研究」 ブリュン, 1866年, 初版.

オーストリア・ブリュン（現在のチェコ・ブルノ）の修道士だったメンデルは、ウィーンで自然科学を学んだ後、ブリュン実科中学の補助教員となり、エンドウを修道院の実験農園にまいて、有名な遺伝の研究を始めた。実験は8年間続き、彼はその結果を1856年ブリュン博物学会で発表した。そのレポートが本書であり、本書において彼は遺伝に関する「メンデルの法則」を確立したのである。



キャプション表記 凡例

著者名（生没年号）. 「書名」刊行地, 出版者, 刊行年, 初版.

金沢工業大学ライブラリーセンター

『工学の曙文庫(The Dawn of Science and Technology)』について

『工学の曙文庫』は金沢工業大学ライブラリーセンター(KIT-LC)に設置された科学的発見や技術的発明が最初に発表された初版本を体系的に収集した稀覯書コレクションで、現在およそ 2000 点を所蔵しています。

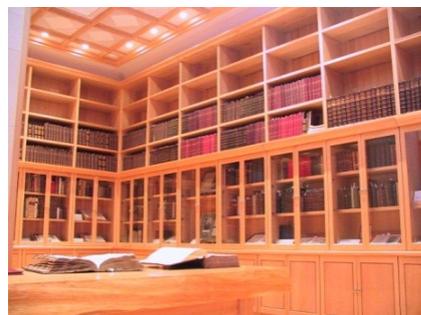
金沢工業大学は工学の教育・研究を行っているわけですが、工学は有益で便利なものを産み出して私たちの生活を豊かにしてくれる反面、その目的や使い方を誤れば大きな災厄をもたらすことは歴史が示しています。工学の教育・研究においては常にこうした危険を認識していなければなりません。その認識のためには科学や工学の発展の歴史的展開の把握が不可欠です。『工学の曙文庫』はまさにこのために構築されたものであり、金沢工業大学の科学技術史や科学技術倫理の教育・研究に活用されています。

KIT-LC は大学に於ける学生生活の中心であるべく、すなわちまさに「大学の心臓」として機能すべく、全く新しい大学図書館のかたちを取って 1982 年に誕生しました。設立準備委員会には国立国会図書館副館長（当時）酒井悌氏、アメリカ図書館協会会長（当時）フォスター・モーハート氏、ハワイ大学教授（当時）鈴木幸久氏などが加わっており、当時の最先端のライブラリー・サイエンスの成果が応用されたのです。例えば、KIT-LC は全ての図書館業務をコンピュータによって行った我が国最初のフル・コンピュータライズド・ライブラリー、「カードレス・ライブラリー」ですし、当時から「電子化情報」と称してデータベースやデジタル化された情報の収集と利用者に対する提供も行っていました。こうした新しい図書館像を模索し実践しつつも、しかし図書館の本質は「書物」にある、との思いで「書物」中の「書物」である「稀覯書」をコレクションしているのです。

金沢工業大学ライブラリーセンター顧問 竺 覚暁



ライブラリーセンター



工学の曙文庫